

# オプス・デイとは

オプス・デイとオプス・デイの協力者の役割についての簡単な説明。

2016/03/29

オプス・デイとは、一九二八年十月二日、聖ホセマリア・エスクリバーが創立したカトリック教会の組織です。正式な名称は、「聖十字架とオプス・デイ属人区」ですが、略して「オプス・デイ」（ラテン語で『神のわざ』）と呼ばれています。

日常生活のあらゆる状況の中で、仕事を聖化し、信仰と首尾一貫して生きることを人々に伝えることで、教会の福音宣教の使命に貢献することを目的としています。

オプス・デイが伝えたいことは、すべての高貴で立派な仕事は神の仕事に変えることができる、ということです。聖ホセマリアにとって仕事を聖化するとは、イエス・キリストの精神に従って働くことです。それは、神に栄光を歸し、人々の役に立つよう自らの仕事を最後までやり遂げ、世界の聖化に貢献することです。

オプス・デイは、そのメンバーと、希望するすべての人々に、靈的形成と司牧的配慮を提供します。それは、各々が教会と社会において占める場で神を知り神を愛し、信仰の証人となり、社会が抱える様々な問題

をキリスト教の精神に従って解決するのをサポートするためです。

オプス・デイは属人区で、教区のような教会の他の区割り組織と同じく、属人区長（現在はフェルナンド・オカリス師）と司祭団、そして男女の信徒から成っています。また、大勢の人々がオプス・デイの使徒的活動に参加していますが、その中に多数の協力者がいます。

オプス・デイの協力者とは、各々に可能な範囲で、祈りや寄付や仕事を通して、オプス・デイが促進する諸活動を援助する人々のことです。

「証言」というセクションで紹介する証言は、協力者がどのようにして協力しているかを示す例です。

---

pdf | から自動的に生成されるドキュメン  
ト [https://opusdei.org/ja-jp/article/  
opusdeitowa/](https://opusdei.org/ja-jp/article/opusdeitowa/) (2026/02/01)